

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600179		
法人名	医療法人杏林会三股病院		
事業所名	グループホームみみつ2号館 (ユニット名:千代)		
所在地	宮崎県日向市美々津町2975番地		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ご入居者中心の介護を常に心がけています。 ②ご入居者の意志を尊重した楽しい暮らしを支援します。 ③「我が家」として生活して頂けるような設計にし、リビングの一角にふれあいコーナーを設置。訪れてきて下さる方々との交流の場づくりを目指しています。 ④農園で四季折々の野菜をご入居者と一緒に育て収穫し調理します。 ⑤馴染みのある暮らしの継続を支援し、看取り介護にも力を入れています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれ広々とした敷地に立地し、近隣の散歩道には住民の往来があり恵まれた環境の中にホームが立地している。すぐそばには地域公民館があり、地区内の行事があればすぐそばで住民交流を見ることができる。コロナ禍が落ち着けば地域住民との交流が盛んに行われる環境である。ホーム内は、開設後、約9カ月の状態の中、重度の入居者の存在もあるが、終日落ち着いた雰囲気の中で生活である。職員も忙しさを感じさせない動きがあり、入居者は安心して生活できている様子が伺える。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で3月より話し合いを積み重ね、理念を作りあげた。職員全員が理念について述べるができるよう分かりやすい納得のいく言葉選びを行った。毎朝、唱和を行っている。	両ユニットの入り口に理念が掲示されている。職員が考慮を重ね作り上げた理念であり、わかりやすい言葉・表現になっている。毎日朝の職員会で唱和を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にある為、日常的な交流は開設後できていない。	避難訓練を開設後の短期間で3回行っている。地区役員等にも協力を依頼し、グループホームの役割などに理解が深められることに役立っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や交流も、実施できていない状況にあり、文書でご報告するなどの代替措置をとっている。地区区長を始め、民生委員の方々へ案内を配布しご意見や感想を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にある為、運営推進会議は行えていないが、2ヶ月に1度、情報開示を含めた文書を配布しご意見や感想を頂いている。また、頂いた意見を日常的なサービスへ反映させている。	定期的に家族、運営推進会議委員に対して、月ごとの行事内容、入居者の様子などをまとめ、意見用紙を同封し送っている。戻ってきた意見はわかりやすくまとめて、次の機会に送付しサービスの向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村にもケアやサービス向上の為の相談を随時行っており、指導を頂いている。	コロナ禍もあり来訪はないが、電話相談を行ったり運営推進会議の資料を送付している。関係性は良好に維持できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、全職員が理解し、自分の言葉で述べる事ができ実践できるよう努めている。見過ごされやすい”言葉”に関する拘束も、職員一人ひとりが、なぜいけないのか伝えることができ行動できるよう取り組んでいる。	玄関は施錠なく、センサー対応をしている。センサーの音量も職員がどこにいても聞こえるように職員全員で検討がなされた結果のものとなっている。職員の言動についても常に注意を払いながらケアが提供されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を行い、全職員が理解しケアやサービスの向上に務められるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が入居されており、グループホームを開設する前の職員研修で学ぶ機会があったが、その後左記のことについて学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前に施設見学を行って頂き、十分な説明を行い、ご家族様やご本人の疑問点にも気軽に相談ができる体制にある。ご本人やご家族様が安心と納得をして頂いた上で入居できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に面会時や電話、郵送にて要望や意見を伺い事業に反映できるようにしている。	運営推進会議の中で家族からの意見も収集できる努力を重ね、届いた意見に関しては職員間で話し合いを重ねて運営に反映させる努力がなされている。ホーム便りが家族に送られ、感謝の言葉も届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を行い、職員の意見や要望に耳を傾け、意見交換しやすい環境づくりに努めている。改善することは話し合い改善するよう努めている。	管理者は機会を捉え職員の意見を聞く姿勢を示し、アンケートという形での意見収集にも努めている。災害時の訓練等では意見が多くあり、必要な備品購入にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回、人事考課を行い職員自身が自分を振り返る機会づくりや、要望等にも耳を傾け、改善が必要な時は要望していくように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で、外部への研修が中止になる中、オンラインを通して研修や事業所内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある施設とのネットワークづくりはできており、気軽に相談連絡し合える体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族より話を聞いた り、介護支援専門員等からの情報収集に努 め、不安や要望について把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居前に施設を見学してもらったり、担当者 会議の場でもご本人やご家族様より不安や 要望等を聞き、今後の生活の場に向けた関 係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難な場合はご本人や ご家族様の理解を得た上で、他のサービス 利用を視野に入れた対応ができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩より色々な事を教わったり、一 緒に物事に携わり、暮らしを共にし信頼関係 を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族様の要望を聞きながら、本人との関 係が良好に保たれるよう、ご家族様との連 絡も密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり外出や面会ができていない。ご家 族様とは、電話やLINEを使用したテレビ電話、 ガラス越しでの面会を行っている。また、ハガキ を職員と一緒に世話になっている方へ記入し 「私は元気です。」と書いている方が多数おられ た。	コロナ禍であり、面会制限も出ているがガラ ス越し、テレビ電話などの活用を行っている。 家族、友人、知人を対象にハガキ・手紙を書 いたりして関係性の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者間でトラブルにならない様、職員間で 情報共有している。一人ひとりの持てる力を 発揮できるようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍にある為、来所等は出来る状態ではないが、電話での相談や話を傾聴するよう支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を傾聴するようにし、信頼関係を築いていけるように努めている。	入居者は自分の意向等を言葉で表現できる人が多いが、できない入居者に対しては、言葉・表情などの観察を行い、意向がくみ取れるように努力を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを全職員で行い、情報の共有ができるように努めている。また、ケース検討会をしながら職員全員でご本人のこれまでの生活を知り、その方らしく生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握した上で、一つでもご本人の役割や楽しみ、生きがいを見い出せるよう、自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が、計画作成担当者と共にモニタリングを実施し、計画や支援につなげることができるよう努めている。	家族も含めた介護計画の作成を行い、職員間でも毎月、丁寧なモニタリングが行われている。計画に沿った内容で記録がなされ、細かい内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に生活の中での気づきを記入したり、水分摂取量の少ない方は、水分チェックシートを活用し、職員間で情報の共有がスムーズに図られるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人ひとりの気づきや意見を大切に、ケアの中に反映させている。ご家族様へのお手紙、ご本人からリクエストのあったメニューを食事の中に取り入れるなど柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にある為、地域の方や民生委員、ボランティアの方々に来て頂く機会が制限される中、園芸や草刈りなど屋外作業の協力を受け、地域のボランティアとの協同のもと、豊かな暮らしが行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携ができており、ご本人やご家族様との意向確認を取りながら、必要時速やかに医療機関へ受診できるよう体制づくりができています。	入居前からのかかりつけ医受診も支援を行っている。ほとんどの入居者は、月に1回母体病院からの訪問診療を受けているが、昔からの地域に根差した病院ということもあり馴染みと安心感が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中や申し送りの際の情報交換において、介護職と看護職が常に情報交換及び共有を図り、医療機関への受診までの体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、情報提供表にて情報の共有を図る体制を取っている。また、入院中には、面会や病院関係者との情報交換や関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設にできる事を理解して頂いた上で、ご本人・ご家族様との話し合いの場を持ち、意向に沿ったケアを行っている。職員も看取りケアについての勉強会を通して、ケアの技術向上とチームケアの体制づくりができています。	約9カ月近い間に、既に看取り実績がある。看取り指針に沿いながら、家族も泊まり込み、職員みんなで見送りが見送りができた。職員には、事後アンケートと勉強会も重ね、技術の向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡体制と初期対応について体制づくりができています。職員は院内研修や外部研修等に参加し、知識や実践力を身につける為の研修計画を実行できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心としたマニュアルに沿った避難訓練とマニュアルの定期的点検を行っている。病院や地域住民、消防団との協力体制を整えている。	開設後9カ月近い間に、3回、防災訓練を実施。消防署等関係機関、地区役員・住民等との協力体制を整えている。訓練の際、ホーム裏の山手に避難場所が必要だという意見も出て近く実現する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し、個人情報については秘密を守り、安心して生活できるよう努めている。職員一人ひとりが、あなたにだったらお願いしたいとご本人に思ってもらえるような声かけに努めている。	ユマニチュード・認知症に関する勉強会を定期的に重ねているが、学習の機会ごとに声かけなどの変化もみられる。本人本意を基本としてさりげないケアの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、ご本人が自己決定できるような声かけを実践している。職員が日課を決めるのではなく、ご本人に選んで決めてもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は予め決めておらず、その日の天候やご本人の体調に応じて活動を選択できるようにしている。安心と居心地よく生活して頂けることを目標とし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着を選んで頂いたり、美容室の方からヘアカットして頂く際も、職員が髪型を決めるのではなく、ご本人に決めて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を記入したり、週に1度は入居者様と一緒に料理をする日を設け、片付けも行っている。季節を感じられる食事メニューなど一緒に考える支援を行っている。	季節を感じられるメニューを考え、職員の意見も反映させながら、入居者の希望に応じた食事作りを行い、共に調理、片付けも行っている。外庭でバーベキューを楽しんだりすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事の支援をしている。おかゆ食や刻み食の方でも、見た目に配慮し、同じ食事のメニューを食べて頂けるようにしている。水分量は水分チェック表を用いて、職員が把握できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関である、歯科の歯科衛生士に月1回来てもらい、評価や指導を受けて個々の口腔ケアの方法に応じたケアを行うことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックしながら、トイレへ案内している。意思を伝えることが困難な場合は、行動や表情から読み解くよう支援している。	排泄パターンチェックシートを細かく記録し、尿・便意の維持を目的に、トイレ内での排泄を基本としている。職員も紙パンツの使用を体験し、排泄の自立に向けた支援につないでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んで頂いたり、食事のメニューに野菜を取り入れるなどして、自然排便が出るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯の温度も、一人ひとりの好みによって調整をしている。「毎日入らんでいい。」のご本人たちの声から、入浴者は予め決めてあるが、その時の気分に応じて毎日入浴している方もいる。	1日おきの入浴スケジュールにはなっているが、希望があれば毎日でも入浴できる支援をしている。一般浴と機械浴の設備があり、入居者に応じて使い分けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を調整(温度、照明等)し、快適な環境で十分な睡眠がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は、チェック表を使用し飲み忘れがないよう努めている。状態に変化がある場合は看護師に報告、相談し医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1~2回程度、検討会を行い役割や支援の方法について検討している。職員が共通した認識のもとで、支援が行われるよう取り組み、把握した内容(調理、掃除、散歩、ドライブ等)で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に出かけたり、日光浴を行っている。コロナ禍にあり買い物や外食には行けていないが、日向市内のご本人から希望のある馴染みの場所へドライブに出かけている。	近辺の海岸端の散歩、神社参拝など外出支援を行い、ドライブなども取り入れストレスがたまらないように心がけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは職員が管理している。コロナ禍にあり、ご本人が買い物に行くことはない。ご本人に買い物内容を確認し、職員が出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が1名おり、電話連絡を行っている。他のご入居者も、施設にある電話やLINEを使用したテレビ電話、ハガキを担当職員と一緒に記入し、ご家族様へ送るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁にご本人と一緒に作成した作品(季節が感じられる物)を飾ったりしている。玄関先のプランターの花を摘み、テーブル上に生け花として飾ったりしている。	ホーム全体、共用空間はビタミンカラー(オレンジ色)を取り入れている。吹き抜けの天井から光が差し込み、明るい広々とした空間の演出になっている。移動を邪魔する置物等もなく落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファがあり、好きな場所に座りテレビを観たり、話をしている様子がある。ユニット内の行き来も自由にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、タンスや洋服、茶碗、箸、湯飲みなどの使い慣れた物を持ち込んでもらい使用している。自宅で使用していたベッドを持ち込まれている方もいる。	個々人に合ったベッドのレンタル(保険外)があり、壁には家族の写真が飾られ、使い慣れた家具の持ち込みなどで安心できる居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ、浴室には手すりを設置している。ご本人がくつろげる位置にテレビや時計などの設置をしている。		